

科学研究費補助金（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	19101008	研究期間	平成19年度～平成23年度
研究課題名	拒食症の感受性遺伝子の網羅的同定と機能解析による発症カスケードの解明	研究代表者 (所属・職)	猪子 英俊（東海大学・医学部・教授）

【平成22年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
	A+ 当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A 当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B 当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C 当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(意見等)</p> <p>マイクロサテライトを多型マーカーとしたゲノムワイドな相関解析による疾患関連遺伝子領域候補の選定、遺伝子候補領域についての SNP 解析による疾患感受性遺伝子の同定、resequencing による未知 SNPs や rare variants の同定に基づく 5 個の拒食症感受性遺伝子の確定、拒食症感受性遺伝子産物と相互作用するタンパク質群の同定とそれに基づく摂食障害の疾患カスケード(の一部)の同定と着実に研究が進められている。KO マウスや点突然変異マウスのバッククロスにより得られた純化ホモマウスを用いた摂食障害感受性遺伝子の変異が与える摂食行動への影響およびネットワークとの関連を解明することは意義深い、多因子性の疾患と考えられるため、クリアな結果を出すために多因子変異マウスの利用やネットワークの多点同時攪乱実験等の工夫が必要となるであろう。拒食症感受性遺伝子の同定、相互作用因子群の同定とそれに基づく摂食障害の疾患カスケード(の一部)の同定を初め種々の研究成果があるので、今後論文発表が期待される。発症メカニズムに関するネットワークの解明は治療薬の開発に必須であるので、各相互作用因子の下流の機能制御メカニズムも理解していく必要があると考えられる。研究組織や研究費の使用については問題ないと思われる。発症メカニズムの解明や相互作用を調節するリガンドの探索に向けての今後の研究計画・方法は妥当なものであると考えられる。</p>	